

国の悪

キー・ヴァース「わたしの声に従いなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。わたしがあなたがたに命じたすべての道を歩みなさい。」

エレミヤ7:23

選ばれた聖句

エレミヤ7:1-11, 21-23

キー・ヴァースにある命令は、出エジプト記19:5、レビ記26:3-12、申命記5:33にある命令を簡潔に言い直したものである。もしイスラエルがエホバの戒めを守るなら、彼らは与えられた土地に住み、栄えるだろう。これは、イスラエルが北イスラエル部族と南ユダ部族に分かれた後も同じだった。神とその選ばれた民との間の契約では、従順が常に最も重要な条件であり、犠牲ではなかった。再び偽りの神々への礼拝に陥ったユダの民は、**、**神殿に来ていけにえを捧げることによって、エホバの裁きからの安全を求めた。

今日の選択聖句では、エレミヤの口を通して語られたエホバの言葉を読むことができる：「主を礼拝するためにこの門を通して来るユダのすべての民よ、主の言葉を聞け。イスラエルの神、全能の主はこう仰せられる：あなたがたの道と行いを改めなさい。欺く言葉を信じて、ここが主の神殿、主の神殿、主の神殿と言ってはならない！もしあなたがたが、本当に自分の道と行いを改め、互いを正當に扱い、この場所で、外国人、父のない者、やもめを虐げず、罪のない血を流さず、他の神々に従って自分たちに害を及ぼさないなら、わたしはあなたがたをこの場所、わたしがあなたがたの先祖に与えた土地に、とこしえに住まわせる。しかし、見なさい、あなたたちは価値のない偽りの言葉を信じている。盗みをし、殺人をし、姦淫をし、偽証をし、バアルに香をたき、あなたの知らない他の神々に従いながら、私の名を冠したこの家に来て、私の前に立ち、私たちは安全だ、これらの憎むべきことをしても安全だと言うのか。私の名前（ ）を冠したこの家は、あなたたちにとって強盗の巢窟となったのか？しかし、わたしは見ていた！主は宣言される」。エレミヤ7:2-11

この力強い言葉は、ユダがその悪い行いを改めなければ、宗教的な行事も神殿の犠牲も利益をもたらさ

ないことを示している。既知の罪を犯し、認識された義務を怠って生活している間は、誰も無償の救いへの関心を主張することはできなかった。これが、エレミヤが訴えたユダ王国の悪であった。彼らは、"これは主の神殿だ！"と宣言することによって、自分たちが冒涇した神殿が自分たちの保護になると考えていた。

神の御言葉に従わずに神の寵愛を主張することに対するこの警告は、エレミヤの時代と同様、今日にも当てはまる。毎週**6**日間も不従順な生活を送りながら、安息日に教会の建物で救いを主張し、キリストがそこに救いに来てくださると主張することはできない。「恵みが豊かになるために、罪を犯し続けなければならないのか。パウロは言った。(ローマ**6:1,2**)。キリストの十字架は、従順であろうとする誠実な努力とともに、このような有害な感情に対する最も効果的な救済策を形成する。神の御子は、神の律法の素晴らしさと罪の悪さを示すために、私たちの罪のために御自身を捧げられたのです」(ローマ**7:13**)。ローマ**7:13**)、私たちは、結果なしに悪いことをしてもよいなどとは決して考えないようにしよう。